

ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2023年11月3日

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「落葉果実年次報告書」のリンゴの項の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ>

栽培面積・収穫面積 2023/24年度(予測)

当事務所は、第一次産業省(MPI)が公表した推計に基づき、2023/24年度のリンゴの栽培面積が1万1千ヘクタールから9,200ヘクタールに大幅に減少し、収穫面積が9千ヘクタールに減少すると予測する。これは、サイクロンガブリエルの影響により、リンゴの主産地であるホークスベイ地方とギズボーン地方で、大規模な洪水、土砂やがれきの流入、強風、冠水が発生し、その結果、果樹園が完全に破壊されたか、または残った果樹が将来の生産に適していると分類できない深刻な被害を受けたことによるものである。

一 サイクロンガブリエルからの復興

ネーピア地区(ホークスベイ地方)とギズボーン地方の生産者らは、損傷した果樹園を救済・修復するかどうかの決定段階にある。リンゴとナシの果樹園を復活させるための推定コスト(果樹とその植栽、支持構造物、灌漑システム、及び農地造成の費用)は、1ヘクタール当たり18万~25万ニュージーランドドル(10万8千~15万米ドル)と莫大である。リンゴの苗木を得るためのリードタイムは2~3年で、果樹が成木化するまでにさらにリードタイムがある。その上、生産者らは、2022/23年度だけでなく、以前のコロナ禍による困難な年にすでに収入の減少に直面している。その結果、かなりの面積が将来回復しないか、または復旧するのに少なくとも数年かかる可能性がある。

一 債務の増加と金利の上昇

果樹園の再開やその他の投資のため、多くの生産者は銀行からの融資を必要とすると見られる。現在、国の政策金利が上がっているため、債務の返済がニュージーランドの農業部門が直面する大きな課題となっている。これは、ニュージーランド準備銀行(RBNZ)がオフィシャルキャッシュレート(OCR: 米国のフェデラルファンド金利に相当する)をどのように設定するかにかかっている。RBNZが2023年5月24日に行なった最新の見直しにより、同国のOCRは予想通り5.50%に引き上げられた。RBNZは、この時点で一旦立ち止まることで、大幅な引き締めの影響を評価し、必要に応じてさらなる増加のタイミングを見極めるための時間を得られるとしている。

RBNZによると、2023年8月時点の園芸事業に対する同国の銀行融資総額は98億NZドル(59億米ドル)である。園芸生産者への融資総額は、2017年以降、年平均(複利)8.74%で増加している。(酪農、畜産、穀物農家を合わせた融資は同-0.51%で減少している。)

栽培面積・収穫面積 2022/23年度(実績)

当事務所は、2022/23年度の栽培面積1万1千ヘクタール、収穫面積8,900ヘクタールという農務省の公式推計値を維持する。

サイクロンガブリエルが来襲したタイミングのため、収穫前に作柄を回復させることはほぼ不可能であった。生産者は、影響を受けていない果樹園や果樹園の中のアクセス可能な部分、または果実が回収可能な果樹の収穫に専念した。当事務所は、業界関係者から集めた情報に基づき、国内の総栽培面積のうち20%弱が土砂に埋まったか、アクセスできないか、または破壊されたために収穫できなかったと推定する。

タスマン、カンタベリー、オタゴの各地方など、ニュージーランドの他のリンゴ産地は、ホークスベイやギズボーンほどには気象現象の影響を受けなかった。産地では、完全に復活した認定季節雇用主(RSE)制度によって収穫が行なわれた。

生産量 2023/24年度(予測)

当事務所は、2023/24年度を生産量を46万トンと予測する。これは、エルニーニョ現象、季節労働力の確

保、及び農業生産システムの革新によって予想される回復を示している。さらに、前のシーズンには気象条件のために収量が減少した栽培面積で、フルに生産されるものとしている。

一 季節労働力の確保状況

過去のシーズンには、コロナ禍による政府の国境制限によって外国人労働者の確保が制約され、国内の園芸作物の収量に大きな影響を与えた。業界は現在、国境制限がなくなり、ワーキングホリデービザの外国人も戻ってくることから、労働力確保の見通しについてはより楽観的になっている。

認定季節雇用主制度は、園芸・ブドウ栽培業界で国内の労働者が足りない場合に、季節労働のための労働者を海外から募集することを認める政府の政策である。これらは通常、太平洋の国々からの雇用であり、リンゴの収穫労働に不可欠な要素である。2022年9月には、2022/23年度シーズンの上限が1万6千人から1万9千人に引き上げられた。ニュージーランドでは、2023年10月に総選挙を経て政権が交代した。次期政権は選挙に先立ち、5年間で上限を年間3万8千人までさらに引き上げる方針を打ち出していた。

一 エルニーニョ現象

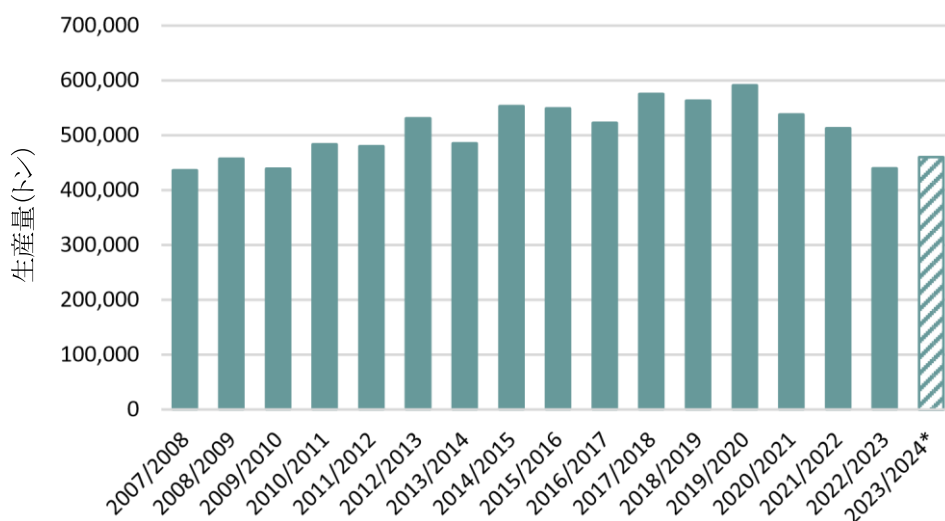
ニュージーランド国立大気水圏研究所(NIWA)の科学者たちは、過去3年間のラニーニャ現象の後にエルニーニョ現象が発生すると予測している。エルニーニョ現象の期間中、ニュージーランドは夏に西風が強くなったり、頻繁に吹いたりする傾向があり、東部では乾燥し、西部では雨が多くなる可能性がある。灌漑を利用している商業的果樹園の大半では、水の供給が制限されない限り乾燥した季節の影響はほとんど問題にならない。

一 技術革新とバイオテクノロジー

ここ数年の間に、多くの果樹園や梱包施設が技術的に進歩し、労働力をより効果的に管理するための自動化に多額の投資を行っている。その他のイノベーションは、意思決定と果実の品質管理を改善することを目的としている。梱包施設は、選別用のカメラ技術と、梱包、積み上げ、パレット積み用のロボット技術に投資している。近年、生産者は果樹園の作業をより簡単かつ効率的にするために、作業台車の技術に多額の投資を行っている。

新政権は選挙に先立ち、最近までニュージーランドで禁止されていたバイオテクノロジーの利用を認める法律改正の意向を表明した。「バイオテクノロジーを活用する」と題された報告書では、リンゴ産業の回復のための潜在的な利点が強調されている。また、この報告書は、果樹が完全な商業生産に到達するまでの期間を数年間短縮する進行中の研究も強調している。

図5 ニュージーランドのリンゴ生産量



出所: 農務省公式推計、*は当事務所予測

生産量 2022/23年度(実績)

当事務所は、推計生産量を農務省の公式な予測生産量から44万トンに引き下げた。これは、すでに述べたサイクロンガブリエルの影響(北島)によるものである。対照的に、南島のほとんどの地域では良好な生育条件が見られた - ネルソン・タスマン地方(リンゴとナシの栽培面積の23%を占める)では、良好な生育条件により品質の高い果実の収量が増加した。残念ながら、全国の収穫量は2007/08年度シーズン以来15年ぶりの低水準である(図5)。

貿易

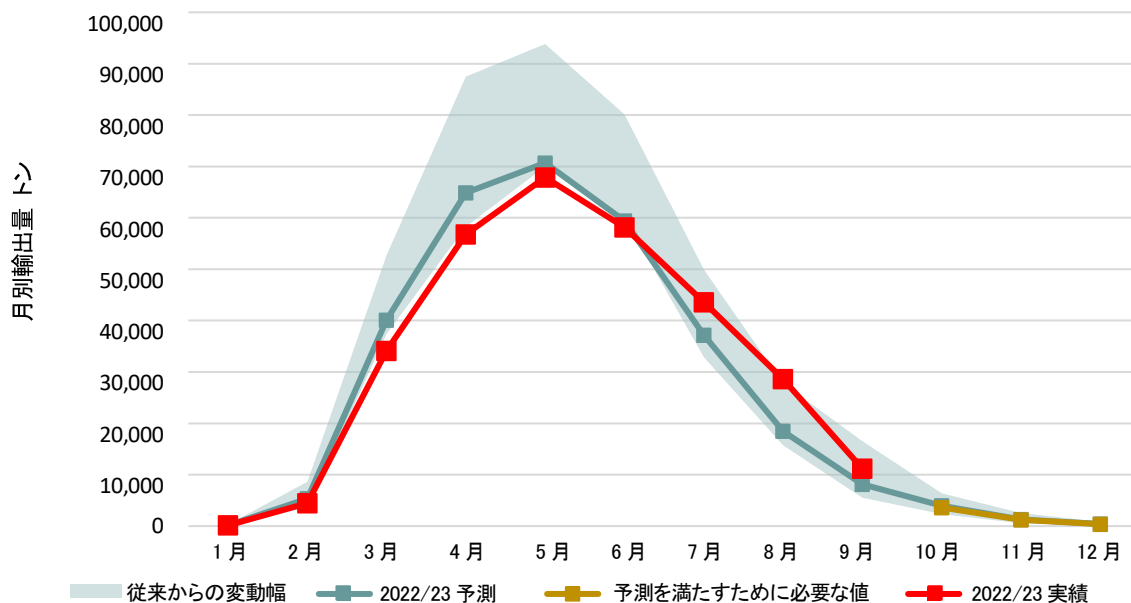
輸出 2023/24度(予測)

当事務所は、2023/24年度の輸出量を32万トンと予測する。過去の輸出量には遠く及ばないものの、今年度の被害からの回復を示している。業界関係者によると、ニュージーランドは他国と季節が逆の生産を行っているため、市場の需要は堅調に推移すると予想される。予見できる当面の輸出は、引き続きベトナム、中国等のアジア市場及び米国と英国に高い優先度が置かれるものと予想される。

輸出 2022/23度(実績)

当事務所は、リンゴの推計輸出量を農務省の公式な推計から31万トンに上方修正した。業界のコメントは、2022/23年度はニュージーランドのリンゴとナシの輸出可能量が減少したことの影響を受け、中国、ベトナム、台湾等のアジア市場でシーズン初めの引き合いが強かったというものであった。さらに、輸出業者は今年、国内市場よりも国際市場を優先したという業界のコメントもある。これまでのところ、収穫期間中の月当たりの輸出量は近年に比べて少なく、冬季の出荷量は前年を上回っている(図8)。

図8 ニュージーランドの月別リンゴ輸出量と予測



出典: Trade Data Monitor LLC

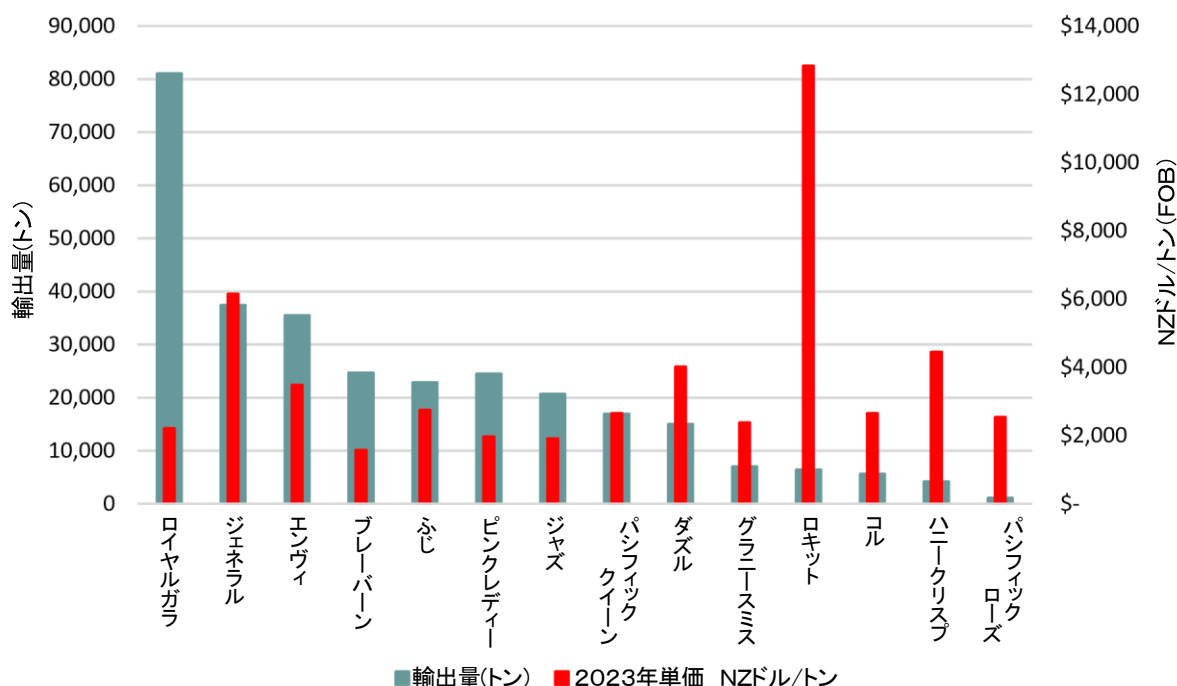
表1 ニュージーランドのリンゴ輸出統計

輸出先国	数量(トン) 暦年					1月~9月		変動率%
	2018	2019	2020	2021	2022	2022	2023	
世界合計	369,389	390,942	400,397	355,799	340,762	331,289	303,155	-8.49
ベトナム	18,149	25,874	32,157	33,677	47,223	45,459	43,876	-3.48
中国	22,171	45,015	38,098	35,423	53,304	53,210	41,692	-21.65
台湾	22,437	20,858	26,596	29,135	31,183	30,699	28,787	-6.23
米国	40,462	33,883	28,379	24,433	23,949	23,949	26,043	8.74
英国	44,665	43,299	39,569	32,549	21,892	21,892	22,065	0.79
タイ	18,654	32,890	23,501	20,940	22,486	20,897	22,010	5.33
インド	25,787	17,068	22,163	28,148	18,074	16,992	19,142	12.65
香港	14,074	19,010	16,018	13,953	12,381	11,405	12,934	13.41
アラブ首長国連邦	15,424	14,198	19,163	15,880	14,059	13,140	12,342	-6.07
欧州連合	17,771	18,992	18,452	16,777	13,531	13,052	10,563	-19.07
その他	129,795	119,855	136,301	104,884	82,680	80,594	63,701	-20.96

出典: Trade Data Monitor LLC

ロイヤルガラは、2022/23年度の輸出で最大の品種であった。しかし、エンヴィ、ダズル、特にロケットなどの品種では、輸出需要の増加によりトン当たりの単価が上昇している(図9)。生産者からのコメントは、今回の被災した果樹園の復旧と金利の上昇により、農場出荷価格が将来の品種の選択における重要な要因になるとしている。その結果、業界ではすでにブレイバーンなどの品種の栽培面積が減少しており、同品種は2011/12年度には国内栽培面積の22%を占めていたが、2021/22年にはわずか8%となった。

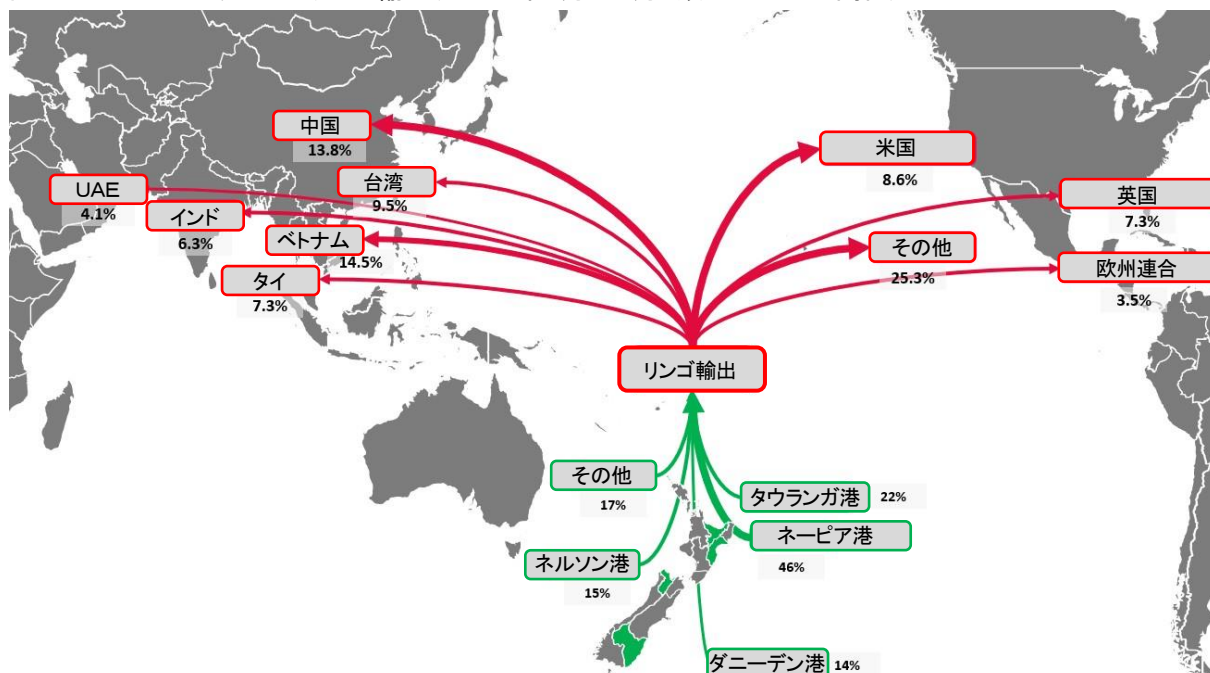
図9 ニュージーランドのリンゴ輸出 品種別単価



出典: Trade Data Monitor LLC

過去5年間、ネーピア港は世界市場へのリンゴ輸出の主要港であり、輸出量の61%を占めていた。2022/23年度には、輸出港に大きな変化があり、タウンガ港は前年同期比でリンゴの輸出量を30%増やし、ダニエーデン港は前年同期比で倍増した。その結果、図10に示すように、ニュージーランドからのリンゴ輸出の港別の割合は大きく変化した。さらに、2022/23年度これまでに、ニュージーランドの最大市場としてベトナムが中国を上回り、それぞれ14.5%及び13.8%となっている。

図10 ニュージーランドのリンゴ輸出(2023年1月～9月 数量ベースの割合)



出典: Trade Data Monitor LLC

表2 ニュージーランドのリンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度の始まり ニュージーランド	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年1月		2022年1月		2023年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	11,000	11,000	11,000	11,000	0	9,200
収穫面積(ヘクタール)	10,300	10,300	8,900	8,900	0	9,000
商業的生産量(トン)	510,000	510,000	450,000	440,000	0	460,000
非商業的生産量(トン)	3,000	3,000	3,000	3,000	0	3,000
生産量合計(トン)	513,000	513,000	453,000	443,000	0	463,000
輸入量(トン)	100	46	300	100	0	100
総供給量(トン)	513,100	513,046	453,300	443,100	0	463,100
国内消費量(トン)	172,300	172,246	183,300	133,100	0	143,100
輸出量(トン)	340,800	340,800	270,000	310,000	0	320,000
総仕向量(トン)	513,100	513,046	453,300	443,100	0	463,100